

平成24年度 コミュニティパーク事業審査結果

応募状況 応募自治会は、あすか野自治会、鹿ノ台西3丁目自治会、真弓1丁目自治会、東生駒南自治会からの4地区の応募があった。

【あすか野自治会】

あすか野遊具の広場、あすか野花の広場、あすか野森の広場、あすか野南の緑道、あすか野北の緑道が応募公園である。

応募趣旨として、様々な種類の桜苗木100本を植樹し通り抜けて花見ができるようにし、住民による桜祭りを開催したい、等の内容である。

【鹿ノ台西3丁目自治会】

鹿ノ台かしの木公園が応募公園である。

応募趣旨として、子どものボール遊びと高齢者の区域区分がなく危険を感じる、また、立木が大きくなりすぎて近隣住宅の日当たりが悪くなっているため、その解消を図りたい、等の内容である。

【真弓1丁目自治会】

真弓1丁目公園が応募公園である。

応募趣旨として、公園自体の魅力が乏しく、また公園の活用方法の仕組みが作られていないため利用者が少ないため、せっかくの素晴らしい財産が生かされていない。そこで、今回のワークショップの参加を通じて、多くの住民が公園に足を向けるような魅力のある公園にしたい、等の内容である。

【東生駒南自治会】

東生駒南第2公園が応募公園である。

応募趣旨として、大きな池があるが全く活用されていないため、水資源を最適に活用し、四季折々に憩うことができる「ふれ愛」の「絆公園」として育成したい、等の内容である。

条件審査 設置されて10年以上経過している街区公園及び緑道を対象としている。4地区の各応募公園とも設置されて約35年経過しているため、当事業の審査対象とする。

審査内容 各地区の応募内容等を鑑み、どの趣旨がこの事業にふさわしいかを生駒市緑の市民懇話会において審査し推薦自治会を選定。意見として事務局に送致し、事務局で審査し決定する。

【緑の市民懇話会審査】

(審査に関する意見)

【あすか野自治会】

- ・都市公園法上の緑道は珍しい。
- ・対象としているのは南北緑道と付近の広場全部なので、かなり範囲が大きいので頑張ってもらわないといけない。
- ・サクラをすごく大事にしているということは、この応募内容から伺える。
- ・今回の事業をキッカケに、10年間は継承していこうという動きは見られる。
- ・せっかくこの熱い想いで植えたサクラが、成長して数年たったら隣接している住民から迷惑なので切ってくれと言われないか。管理水準はどう考えておられるのか。
- ・ワークショップ(WS)で近隣住民が参加され、サクラを植えられたら困るとなれば、応募内容の計画は変わってくるかもしれない。逆に言うと、あまり最初から自治会が「ここはサクラなんだ」

という話で進めると、WSを限定的にしてしまう心配がある。

- ・あすか野自治会のサクラに関しては、自治会の総意として決議されているので前向きに捉えていいのでは。ただ、維持管理については諸問題があるので、クリアしておかないといけないことはある。良い計画だと思ってはいる。
- ・生駒市として絶対に残してほしい緑道だと思っている。今回こういう計画を持たれるのは素敵だと思うので頑張っていたきたい。
- ・私はあすか野の住民として、この南北緑道の地域住民と一体になった生活観というのは理解している。サクラが老木化してきているという部分も見ている。その緑道を桜並木にすれば、素晴らしいまちづくりに繋がるのではないかと、自治会としても良い提案、希望をされている、と思っている。
- ・あすか野の公園に関しては非常に意欲のある応募だとは思いますが、感じとして範囲が大き過ぎないかなど。1年間でこれだけの事業をするのは、すごい体力がいるのではないと思う。あすか野自治会は、私がボランティアであすか野小学校の学校林の整備を行ったとき、他地区に比べて1番多くの応援団が来てもらった。その意欲は十二分にあると認識している。ただ、この範囲を1年間で行うというのは非常に厳しいという印象がある。途中でギブアップされることはないと思うが、その意気込み、対策等を十分に理解してからの結論なのでは、という気がする。
- ・面積が大きいので、全部をやろうと思わないで少しアクセントをつけて考えてもらったらどうか。
- ・ソメイヨシノなど1種類だけに捉われず、色々な種類のサクラで考えてもらいたい。
- ・あすか野自治会での、サクラを一生懸命植えて育てようという意欲を非常に買いたい。

【真弓1丁目自治会】

- ・真弓1丁目公園は高低差のある難しい土地の形状だが、考えてみる余地はある。
- ・現状として、ほとんど街区公園は全国的に使われなくなりだしている。それを何とかしたいというのが真弓1丁目自治会だ。この事業をキッカケに未就学児童の保護者の交流の場にし、随時意見交換する機会を整えサロンを開催して、持続的にやって行きたいとの意気込みが見える。成功すれば、このコミュニティパーク事業が効果的に、コミュニティづくりに繋がっていくとの好例になるのではないかと思う。

【東生駒南自治会】

- ・東生駒南第2公園での池を絡めたりリニューアルは面白いと思う。
- ・東生駒南自治会の、子ども神輿の出発点であるとか、「ふれ愛」の場としたい、井戸端会議の場を提供しますなど、地域の交流の場になるような方向でWSを開き、継続させて成功してもらえたらと思う。

【全体】

- ・いくつかの自治会は「こうしたい」「ああしたい」と既に計画を決めてしまっているように思われる。もし審査の結果選定されたら、意欲的に参加していただく人のみならず、もう少し幅広く、自治会全体の意見をちゃんと集約してもらいたい、という付記事項をつけてはどうか。
- ・生駒にも北、中、南地区と地域性がある。そういう地域割りも参考にしながら選ぶのも一つの方法ではないかと思う。
- ・茨木市のニュータウンで、最初は近隣の住民が市役所に苦情で押しかけたが、苦情だけではなかなか解決しないということでWSを開き再整備した。それから見事に皆が集まるようになったという事例がある。このWSを契機に盛り立てていくのは効果的だ。そのためには、できるだけWSの参加人数を増やしてもらいたい。

(投票により推薦自治会を選定)

- ・投票結果を報告する。あすか野自治会7票、鹿ノ台西3丁目自治会0票、真弓1丁目自治会3票、東生駒南自治会2票。

- ・多数決ということで、あすか野自治会を懇話会としては推薦する。

【生駒市審査】

地域連携について

- ・各自治会とも地域内の老人会、子ども会などの団体等が参加されるため地域の連携は高い。
- ・その中であすか野自治会は、H24 年度重点目標として「美しいふるさとづくり - 桜祭り開催 - 」を目指しての桜植樹 10 年計画が自治会総会において決議されているなど、自治会が一枚岩となり総意としての応募なので、今回の応募自治会の中で地域連携は頭一つ高いと思われる。

公園の課題解決について

- ・各自治会とも問題点を把握し、これらの課題を本事業を通じて解消したいという意図が伺われる。
- ・しかし、通常の公園維持管理の範囲内で解消できる課題も見受けられる。
- ・その中で真弓 1 丁目自治会は、利用者が少ないとの現状の課題に対して、WSを通じて住民、地域の団体間の横の繋がりを密にし一体感を作っていきたい、との明確な意欲が伺える。

公園の育成について

- ・各自治会とも普段から清掃活動、草刈り活動等を地域住民、ボランティアグループ等で行い、維持管理に務めている。
- ・その中であすか野自治会は、サクラの植樹を 10 年間という期間で考えており、その間継続して育成できるよう専門グループの創設を予定していることから、より長期的積極的な育成への意図が伺える。

【審査結果】

各応募自治会からの応募内容及び生駒市緑の市民懇話会において参加者から出された意見を参考に審査し総合的に判断した結果、平成 24 年度コミュニティパーク事業は、あすか野自治会の「あすか野遊具の広場」「あすか野花の広場」「あすか野森の広場」「あすか野南の緑道」「あすか野北の緑道」を事業対象公園とする。

選定理由として、あすか野緑道を桜並木にし、ゆくゆくは桜祭りを開催するという計画の独創性に期待が持てる。懇話会意見の中にもあったが、あすか野緑道はあすか野地区住民のみならず生駒市民にとっても憩いの場として親しまれているため、その緑道のリニューアルによる事業効果は高く、全市的にも波及すると思われる。

また、今回の応募に当たって事前に自治会総会での決議を経ている点も、自治会が一丸となつての取り組みであるという意欲の高さが伺われ、公園育成を 10 年間という長期展望で描いておりリニューアル完了後も継続して取り組みが行われることも、本事業が一過性ではなく未来へ向けての希望を抱かせる事業であることが評価を得た。

以上の理由をもって、あすか野自治会のあすか野南北緑道及びその周辺公園を事業対象として選定するが、生駒市緑の市民懇話会及び市の要望として、次の意見を付記する。

意見：

- ・より大勢の住民、特に周辺住民並びに今後この緑道及び公園を利用する若い世代（子ども会、乳幼児の会等）から積極的に意見を募り、十分に理解を得るようWSを行う。
- ・一種に偏らず、色々な種類のサクラを植える。
- ・苗木の無料配布など、県や他団体の補助、助成を積極的に利用する。
- ・10 年間の計画の中で、毎年見直しを行い修正すべきは修正する。
- ・対象公園が広いので、全部のデザインをしてしまわずWSの中でポイントを絞って、出来ること出来ないことを議論する。